

2012.8.4 (H24) 朝刊

ハッチョウトンボ 36年ぶり見つかる

宝塚市大原野の「市立宝塚自然の家」敷地内にある市の天然記念物の「松尾湿原」で、36年ぶりに県のレッドデータブックでCランクに指定されているハッチョウトンボが見つかった。この湿原では、ハッチョウトンボが生息できる環境を取り戻そうと宝塚市自然保護協会らが10年以上、再生活動を続けていた。同会長の足立勲さん(74)は「長年の活動の成果が出た。感激している」と喜んでいる。

ハッチョウトンボは成虫でも体長2センチ程度で、世界最小サイズのトンボとされる。日当たりが良く、きれいな水が流れ込んでくる湿原に生息し、県のレッドデータブックではCランクに指定されている。

昭和48年に市立少年自然の家(現・宝塚自然の家)がオープンした際には松尾湿原に多数生息していた。しかし、周辺にあるキャンプ場の炊飯場として湿原の一部が利用されるようになって減少、湿原

が市の天然記念物に指定された53年には姿を消していた。足立さんによると51年ごろにいなかったという。

平成10年ごろから自然保護協会らがハッチョウトンボの復活をめざし、草刈りや周辺の間伐などの活動を開始。15年ごろからは市のボランティア団体「宝塚エコネット」が引き継いで月1回続けてきた。

今年6月にエコネットのメンバーがハッチョウトンボと思われる個体を発見し、7月14日に自然保護協会が調査したところ、オス13匹、メス6匹を確認した。オス2匹は未成熟だったため、湿原で繁殖している可能性が高いという。付近の生息地は約5キリ離れているといい、足立さんは「生き物の力はすごい。これからも活動を続けたい」と話している。



松尾湿原で見つかったハッチョウトンボのオス(足立勲さん提供)

宝塚・松尾湿原 再生活動の成果